

03 | 凜（りん）/小2 女兒・CANMAKE ユーザー

ママみたいなお姉さんになりたい——りんちゃんにとってメイクは、自分で自分のことを決めていく第一歩だった

3 分ブリーフィング

【パート A：今日のメイク】

根拠：「メイクした日はウキウキする」「かわいくなった感じと、なんか特別な感じ」「お出かけの時だけだから」という発言。

推論：メイクはりんちゃんにとって日常ではなく「ハレの場」と結びついており、メイクすること自体が気分を高揚させるスイッチになっている。お出かけという非日常と結びついてその効果が増幅されている。

FD：メイクは「かわいくなる手段」である以前に、特別な日に自分をスイッチオンするものとして機能している。

【パート B：メイクを始めたきっかけ】

根拠：「小学生になったからお姉さんになった感じがして」「あ、私もうできるじゃんって思った」「ママに『ちょっとだけね』って言ってもらえてやった一っと思った」「ちゃんとお姉さんになれた感じがした」という発言。

推論：メイクを始めたトリガーは「小学生になった＝お姉さんになった」という自己認識の更新だった。メイクはその証明として機能した。ママへの憧れとママからの承認がセットになって「お姉さんになれた」という確信を生んでいる。

YouTube のお姉さんを毎晩こっそり見ているという行動も、「なりたい自分」への強い渴望の表れである。

FD：メイクの入口は「ママへの憧れ」と「自分がお姉さんになった」という成長の自己承認が重なった瞬間だった。メイクは成長の証明である。

【パート C：使っているアイシャドウのこと】

根拠：「ママのは大人っぽくて、私はかわいい色がよかった」「YouTube で見せてこれが欲しいってお願いした」「自分のだと大事にしたいって思う」「少しずつ使ってる」という発言。

推論：ママのアイシャドウからの独立＝「自分だけのメイク」への欲求が購買動機のコアにある。YouTube を証拠として使い親を説得した点は、この年齢にしては高度な交渉である。「少しずつ使ってる」という行動は、所有物への強い愛着と「なくなってしまう」ことへの不安を示している。

FD：CANMAKE の購入動機は「YouTube のお姉さんと同じもの」という同一化欲求と「自分だけのもの」という所有欲求が重なった結果である。

【パート D：キャンメイクについて】

根拠：「特別。だって自分で初めて持ったやつだから」「友達も持っていて、私も持ってるよって言えて嬉しかった」「持っていない子には話にくい」「持ってる子の方が話が合う」という発言。推論：CANMAKE はりんちゃんにとってブランドとして評価されているというより、「初めての自分のアイシャドウ」という体験と「友達との共通言語」として機能している。所有していることが仲間内での話題参加資格になっており、持っていない子との見えない境界線を生んでいる。

FD：CANMAKE は「メイクができる仲間」の証明書として機能している。ブランド力より「持っている子が身近にいる」という社会的文脈が購買を後押ししている。

【パート E：メイクを頑張る理由】

根拠：「自分でいろんなこと決められる感じ」「お出かけの時だけってモヤモヤする」「学校にも持っていきたい」「みんなでわいわいできそう」「ママみたいにメイクしたい」という発言。

推論：りんちゃんにとってメイクは「大人になること・自由になること」への憧れと結びついている。現在は親の制限下にあることへの抑圧感が「モヤモヤ」として表れており、その解放への渴望がアイライナーや学校でのメイクという未来志向につながっている。

FD：メイクはりんちゃんにとって成長の証明であると同時に、自分のことを自分で決めていくための一歩である。制限されるほど欲求は強まる構造にある。

【全体総括】

根拠：「お姉さんになった感じがした」「ちゃんとお姉さんになれた感じがした」「早くお姉さんになりたい」「ママみたいにメイクしたい」という発言が全パートを貫いている。

推論：りんちゃんにとってメイクは「かわいくなる道具」ではなく、「自分がやりたいことを自分で決められる自分になるための一歩」である。ママへの憧れとYouTubeのお姉さんへの同一化欲求は、きれいになりたいという気持ちである以前に、「自分でやりたいことを自分で決めている大人の女性」への憧れだった。

FD：「かわいくなりたい」の奥にあるのは、好きな時に好きなメイクができるお姉さんになりたいという気持ちである。メイクはその入口として機能している。

対象者プロフィール

- 氏名：凜（りん）
 - 学年：小学2年生・女兒
 - 居住エリア：愛知県名古屋市
 - 父職業：自動車関連インフラ
 - 母職業：時短会社員
 - 小学校種別：公立小
 - 生まれ順：第1子（弟4歳）
 - 世帯年収：750万
 - お小遣い：なし
 - 使用ブランド：キャンメイク（プティパレットアイズ）
 - メイク頻度・シーン：月2〜3回・家族とお出かけする時
 - 購入区分：親におねだりして買ってもらった
-

発言録

パートA：今日のメイク

AI モデレーター：こんにちは。今日は凜ちゃんのメイクのこと、いろいろ教えてください。よろしくね。何を言っても正解・不正解はないから、思ったことを正直に話してね。今日は何て呼んだらいい？

凜：りんって呼んでください。

AI モデレーター：りんちゃんね。よろしく。じゃあさっそく聞かせてね。今日はどんなメイクしてきてくれた？どこか頑張ったところや、お気に入りのところを教えて。

凜：アイシャドウつけてきた。キャンメイクの。ピンクっぽい色。

AI モデレーター：キャンメイクのピンクっぽい色のアイシャドウね。それ、つけてみてどんな感じがした？

凜：なんかかわいい感じになった気がして、嬉しかった。

AI モデレーター：かわいい感じになった時って、どんな気持ちになる？

凜：なんか...うれしいっていうか、ちょっとお姉さんになった感じ？

AI モデレーター：お姉さんになった感じ、いいね。それって鏡で見た時に思うの？それとも誰かに言われた時？

凜：鏡で見た時。あと、ママに「かわいいね」って言われた時も。

AI モデレーター：ママに「かわいいね」って言われたらどんな気持ちになる？

凜：すごく嬉しい。もっとうまくなりたいって思う。

AI モデレーター：もっとうまくなりたいって思うんだね。りんちゃんが目指してるメイクってどんな感じ？誰かお手本にしてる人いる？

凜：YouTube で見てる人がいて...なんかきれいにアイシャドウ塗ってる人。名前ちゃんと覚えてないけど、すごくきれいで。

AI モデレーター：YouTube のきれいにアイシャドウ塗ってる人ね。その人のどんなところがきれいだと思うの？

凜：目のところがすごくキラキラしてて。私もそんな風になりたい。

AI モデレーター：目がキラキラしてる感じになりたいんだね。メイクって、どんな時にしたくなる？

凜：お出かけする時。家族でどこか行く時とか。

AI モデレーター：家族でお出かけする時にするんだね。メイクした日としない日って、気持ちが違う？

凜：違う。メイクした日はなんかウキウキする。

AI モデレーター：ウキウキするんだね。そのウキウキって、どこから来る感じがする？かわいくなったから？それとも何か特別な感じがするから？

凜：両方かな。かわいくなった感じと、なんか特別な感じ。お出かけの時だけだから。

パートB：メイクを始めたきっかけ

AI モデレーター：りんちゃん、メイクっていつからしてるの？最初にやってみたのいつ頃か覚えてる？

凜：1年生の時。去年。

AI モデレーター：1年生の時なんだね。最初にやってみようと思ったのって、なんで？

凜：ママがメイクしてるの見てて、私もやってみたいって思ってた。

AI モデレーター：ママがメイクしてるの見てた時、どんな気持ちになったの？

凜：なんかきれいだなって。ママってメイクするとすごくきれいになるから、私もそうなりたかった。

AI モデレーター：ママみたいにきれいになりたいって思ったんだね。最初にやってみた時のこと覚えてる？どんな感じだった？

凜：ママのアイシャドウ借りてやってみただけど、うまくできなくて。でも楽しかった。

AI モデレーター：うまくできなかったけど楽しかったんだね。うまくできなかったのにどうして楽しかったの？

凜：なんか...やってる感じが楽しかった。ママと同じことしてるみたいで。

AI モデレーター：ママと同じことしてる感じが楽しかったんだね。ちょっと前の話に戻っていい？ママがメイクしてるのって、前からずっと見てたと思うんだけど、なんで1年生になってから「私もやってみたい」って思ったんだろう？それより前は思わなかったの？

凜：うーん...前も見てたけど、なんか1年生になってから急になんかやってみたいって思ってた。

AI モデレーター：1年生になってから急に、か。1年生になって何か変わったこととかあった？

凜：小学生になったから...なんかお姉さんになった感じがして。

AI モデレーター：お姉さんになった感じがしたんだね。それとメイクってどう繋がってるの？

凜：なんか、お姉さんになったらメイクしてもいいのかなって。ママもお姉さんだからメイクしてるし。

AI モデレーター：なるほど。小学生になった＝お姉さんになった、だからメイクしていいって感じがしたんだね。その時ってメイクって「お姉さんがするもの」って思ってた？

凜：うん。幼稚園の時はまだ小さいからできないって思ってた。小学生になったらできるって思った。

AI モデレーター：幼稚園の時から「大きくなったらやる」って決めてたみたいな感じ？それとも1年生になってから急に思った？

凜：急に思った。なんかある日ママがメイクしてるの見てて、あ、私もうできるじゃんって思っ

AI モデレーター：「あ、私もうできるじゃん」って思った瞬間があったんだね。その時どんな気持ちだった？

凜：なんかワクワクした。早くやってみたいって。ママに「やっていい？」って聞いたら「ちょっとだけね」って言ってくれて。

AI モデレーター：「ちょっとだけね」って言われた時、どんな気持ちだった？

凜：嬉しかった。やった一って思っ

AI モデレーター：やった一って思ったんだね。ママに「ちょっとだけね」って言ってもらえて、どんな感じがした？

凜：なんか...ママと同じになれる感じ？ちゃんとお姉さんになれる感じがした。

AI モデレーター：その後、自分のアイシャドウが欲しいって思ったのはいつ頃？

凜：しばらくしてから。ずっとママのを借りてたけど、自分のが欲しくなっ

AI モデレーター：自分のが欲しくなったのって、なんで？ママのじゃダメだなんて思ったきっかけがあったの？

凜：ママのは色がなんか大人っぽくて。私はもうちょっとかわいい色がよくて。

AI モデレーター：大人っぽい色じゃなくて、かわいい色がよかったんだね。りんちゃんにとってかわいい色ってどんな色？

凜：ピンクとか、ラメが入ってるやつ。キラキラしてるの。

AI モデレーター：ピンクとかキラキラしてるのが好きなんだね。YouTube で見てるきれいな人も、そういう色使ってるの？

凜：うん。その人もよくピンクとかパープル使ってる。それ見てからピンク欲しいなって思った。

AI モデレーター：YouTube で見てから欲しくなったんだね。その動画って、どんな時にしてるの？よく見る？

凜：寝る前とかに見てる。ほぼ毎日見てる。

AI モデレーター：ほぼ毎日見てるんだ。見てる時ってどんな気持ち？

凜：楽しい。なんか自分もやってみたいなってなる。見てるだけでもワクワクする。

AI モデレーター：見てるだけでワクワクするんだね。メイクを始めてから、何か変わったと思うことある？自分のこととか、周りのこととか。

凜：なんか...ちょっと自信がついた気がする。お出かけの時にかわいくなれるから。

AI モデレーター：自信がついた感じがするんだね。かわいくなれると自信がつくって、どういう感じ？

凜：なんか堂々とできる感じ？いつもよりちょっとドキドキしない感じ。

AI モデレーター：りんちゃんってメイクの YouTube 毎晩見てるって言ってたけど、それっていつから見るようになったの？覚えてる？

凜：うーん...1 年生の時からだと思う。

AI モデレーター：1 年生の時から見てるんだね。最初にそのメイクの動画見たのって、どうして？自分で探したの？それとも誰かに教えてもらった？

凜：自分で見つけた。最初は別の動画見てたら、なんか横に出てきて。

AI モデレーター：別の動画見てたら横に出てきたんだね。最初にそのメイク動画見た時どんな気持ちだった？

凜：きれいだなって思って、もっと見たくなった。

AI モデレーター：もっと見たくなったんだね。それからずっとその人の動画見るようになったの？

凜：うん。毎日見てる。他の人の見るけど、その人のが一番好き。

AI モデレーター：その人のが一番好きなんだね。その人のどんなところが好きなの？

凜：なんかしゃべり方がやさしくて。メイクもきれいで。見てると自分もやってみたくなる。

AI モデレーター：しゃべり方がやさしくて、見てるとやってみたくなるんだね。その動画ってママと一緒に見てるの？それとも一人で見てる？

凜：一人で見てる。寝る前にこっそり見てる。

AI モデレーター：こっそり見てるんだね。なんでこっそり見てるの？

凜：ママに長く見すぎって言われるから。でも見たいから寝る前にちょっとだけ見てる。

AI モデレーター：りんちゃんが見てる YouTube の人って、大人の人？それとも子供？

凜：大人の人。お姉さんって感じの人。

AI モデレーター：お姉さんって感じの人なんだね。何歳くらいに見える？

凜：うーん...ママより若い感じ。高校生とか大学生とかそんな感じかな。たぶん。

AI モデレーター：高校生か大学生くらいのお姉さんなんだね。子供がメイクしてる動画とかは見ないの？

凜：見たことあるけど、なんかそっちよりお姉さんの方が好き。

AI モデレーター：お姉さんの方が好きなんだね。なんでお姉さんの方がいいの？

凜：なんか...お姉さんのメイクの方がきれいだから。子供のはなんか違う感じがして。

AI モデレーター：お姉さんのメイクの方がきれいな感じがするんだね。りんちゃんもそのお姉さんみたいになりたいって思う？

凜：うん。大きくなったらああなりたいって思う。

パートc: 使っているアイシャドウのこと

AI モデレーター：りんちゃん、今使ってるキャンメイクのアイシャドウ、これだよね。これ、最初に見た時どんな気持ちだった？

凜：かわいい！って思った。色がいっぱい入ってて。

AI モデレーター：色がいっぱい入ってるのがよかったんだね。他にもいろんなアイシャドウがあるけど、なんでキャンメイクがよかったの？

凜：YouTube で見てた人が使ってた。それと同じやつが欲しかった。

AI モデレーター：YouTube の人が使ってたから欲しくなったんだね。その人が使ってるの見て、どんな気持ちになった？

凜：これ使ったら私もあんな感じになれるかなって思って。

AI モデレーター：あんな感じ、っていうのはどんな感じ？

凜：キラキラした感じ。目がきれいな感じ。

AI モデレーター：キラキラした目になれるかも、って思ったんだね。ママにおねだりした時、最初なんて言ってた？

凜：最初ダメって言われた。

AI モデレーター：最初ダメって言われたんだね。その時どんな気持ちだった？

凜：悲しかった。すごく欲しかったから。

AI モデレーター：すごく欲しかったのにダメって言われて悲しかったんだね。その後どうしたの？

凜：何回もお願いした。これが欲しいってずっと言ってた。

AI モデレーター：何回もお願いしたんだね。どんなふうにお願ひしたの？

凜：YouTube で見せて、この色がいいんだって言った。あとお誕生日じゃなくてもいいから、これだけ買ってって。

AI モデレーター：YouTube で見せてお願いしたんだね。ママはそれ見てなんて言ってた？

凜：うーん、しょうがないねって。お出かけの時だけだよって言われた。

AI モデレーター：「お出かけの時だけ」って言われた時、どう思った？

凜：うん、わかったって思った。お出かけの時だけでも嬉しかったから。

AI モデレーター：お出かけの時だけでも嬉しかったんだね。実際に買ってもらった時どんな気持ちだった？

凜：めっちゃ嬉しかった。早く使いたいって思って、家帰ってすぐやってみた。

AI モデレーター：家帰ってすぐやってみたんだね。やってみてどうだった？

凜：うまくできなかったけど、なんかすごく嬉しかった。自分のができたから。

AI モデレーター：自分のができたから嬉しかったんだね。ママのを借りてた時と、自分のができた時って気持ち違った？

凜：全然違う。自分のだとなんか大事にしたいって思う。ママのは借りてるだけだから。

AI モデレーター：自分のだと大事にしたいって思うんだね。今そのキャンメイク、大事にしてる？

凜：うん。ケースに入れてとっておいてる。なくならないように少しずつ使ってる。

パートD：キャンメイクについて

AI モデレーター：りんちゃんはキャンメイク使ってるんだよね。キャンメイクって好き？

凜：好き！

AI モデレーター：どんなところが好き？

凜：色がかわいくて。ラメがキラキラしてて。

AI モデレーター：色がかわいくてキラキラしてるのが好きなんだね。キャンメイクってどんな感じのブランドだと思う？

凜：うーん...かわいい感じ？なんかピンクとかパステルとか多くて。

AI モデレーター：かわいい感じなんだね。りんちゃんにとってキャンメイクって特別な感じがする？それとも普通のアイシャドウって感じ？

凜：特別。だって自分で初めて持ったやつだから。

AI モデレーター：初めて持ったやつだから特別なんだね。もしキャンメイク以外のアイシャドウを買うとしたら、どんなのがいいと思う？

凜：うーん...やっぱりキラキラしてるやつ。でもキャンメイクがいい。

AI モデレーター：やっぱりキャンメイクがいいんだね。なんでキャンメイクじゃないとダメなの？

凜：なんか...YouTube の人も使ってたし。あと友達も持ってた。

AI モデレーター：友達も持ってるんだね。その友達も持ってるの見てどう思った？

凜：いいなって思った。私も持ってるよって言えて嬉しかった。

AI モデレーター：私も持ってるよって言えて嬉しかったんだね。友達とキャンメイクの話ってするの？

凜：する。どの色がかわいいとかって話する。

AI モデレーター：どの色がかわいって話するんだね。その友達って何人くらいキャンメイク持ってるの？

凜：2人。クラスで仲いい子。

AI モデレーター：仲いい2人も持ってるんだね。3人でキャンメイクの話するのが楽しい？

凜：楽しい。学校で話すと盛り上がる。

AI モデレーター：学校で盛り上がるんだね。キャンメイク持っていない子とは、そういう話しないの？

凜：あんまりしない。持っていない子にはなんか話しにくくて。

AI モデレーター：持っていない子には話しにくいんだね。なんで話しにくいなの？

凜：わかんないかなって思って。持ってる子の方が話が合うから。

AI モデレーター：りんちゃんのクラスって、メイクしてる子他にもいるの？

凜：うーん...何人かいる。みんながしてるわけじゃないけど。

AI モデレーター：何人かいるんだね。りんちゃんから見て、クラスでメイクしてる子ってどんな子が多い感じがする？

凜：なんか、おしゃれな子が多い感じ。髪とかも可愛くしてる子。

AI モデレーター：おしゃれな子が多いんだね。りんちゃんはその子たちのこと、どう思ってる？

凜：かわいくなって思う。仲良くしたいって思う。

AI モデレーター：仲良くしたいって思うんだね。メイクするようになってから、そういう子たちと仲良くなれた感じがする？

凜：うん。なんか話しかけやすくなった気がする。

AI モデレーター：話しかけやすくなったんだね。メイクする前は話しかけにくかったの？

凜：なんか...同じものがなかったから。メイクの話題があると話しやすい。

AI モデレーター：同じものがあると話しやすいんだね。りんちゃんにとってメイクって、どんなものって感じがする？

凜：うーん...なんか、楽しいもの。あとおしゃれできるもの。

AI モデレーター：楽しくておしゃれできるもの、か。他にもある？

凜：なんか...友達と話せるもの、かな。

パートE：メイクを頑張る理由

AI モデレーター：りんちゃんって、アイシャドウ以外にも何かメイクしてるものってある？

凜：リップ。ママのやつたまに借りてる。あとチークも少しやったことある。

AI モデレーター：リップとチークもやったことあるんだね。その中で一番好きなのってどれ？

凜：アイシャドウ。一番楽しい。

AI モデレーター：アイシャドウが一番楽しいんだね。リップとかチークと何が違うの？

凜：アイシャドウって色がいっぱいあって、混ぜたりできるから。なんかやってみる感じが一番する。

AI モデレーター：やってみる感じが一番するんだね。りんちゃんってなんでメイク頑張ってると思う？自分で思うのでいいんだけど。

凜：うーん...かわいくなりたいから、かな。あと YouTube のお姉さんみたいになりたいから。

AI モデレーター：かわいくなりたいのと、お姉さんみたいになりたいから頑張ってるんだね。かわいくなったら何かいいことがある？

凜：ママに褒めてもらえる。あと友達と話せる。なんかウキウキする。

AI モデレーター：ウキウキするんだね。そのウキウキって、どんな時に一番感じる？

凜：鏡見てかわいくなれたって思った時。あとお出かけする時。

AI モデレーター：これからやってみたいメイクってある？

凜：アイライナーやってみたい。YouTube のお姉さんがやってて。

AI モデレーター：アイライナーのどんなところがやってみたいの？

凜：目がはっきりする感じがカッコいくて。なんか大人っぽくなれそうで。

AI モデレーター：大人っぽくなれそうなのがいいんだね。大人っぽくなったらどうしたい？

凜：もっといろんなメイクできるようになりたい。早くお姉さんになってママみたいにメイクしたい。

AI モデレーター：ママみたいにメイクしたいって言ってたけど、ママのメイクってどんな感じ？

凜：なんかきれいで。ちゃんとしてる感じ。いろんな色使ってた。

AI モデレーター：ちゃんとしてる感じ、か。りんちゃんから見てママがメイクしてる時ってどんな感じがする？

凜：なんかカッコいい。お出かけの前にメイクしてると、今日楽しいことあるんだなって感じがして、わくわくする。

AI モデレーター：ママがメイクしてるとわくわくするんだね。りんちゃんも自分でメイクする時、そのわくわくと似た感じがある？

凜：うん。なんか同じ感じがする。メイクするとお出かけが楽しみになる。

AI モデレーター：りんちゃんって、早くお姉さんになりたいって言ってたけど、お姉さんになるってどんなイメージ？

凜：うーん...自分でいろんなこと決められる感じ。メイクも好きなのでできる感じ。

AI モデレーター：自分で決められる感じがいいんだね。今は自分で決められないって思うことがある？

凜：うん。ママにお出かけの時だけって言われてるから。もっとやりたい時もあるけど。

AI モデレーター：もっとやりたい時もあるんだね。そういう時どんな気持ちになる？

凜：ちょっとモヤモヤする。でもしょうがないかなって思う。

AI モデレーター：しょうがないかなって思うんだね。お姉さんになったら、そのモヤモヤがなくなる感じがする？

凜：うん。お姉さんになったら自分で決めていいと思うから。

AI モデレーター：自分で決めていいってなったら、どんなメイクしてみたい？

凜：毎日したい。学校にも行きたい。あといろんな色試してみたい。

AI モデレーター：学校にも持っていきたいんだね。学校でメイクしたらどうなると思う？

凜：友達に見せられる。みんなでわいわいできそう。

AI モデレーター：みんなでわいわいできそうなんだね。りんちゃんにとってメイクって、そういうものでもある？

凜：うん。かわいくなれるのもあるけど、みんなと一緒に楽しめる。